

研究・調査報告書

報告書番号 100	担当 滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Alcohol Consumption and Risk of Ischemic Stroke: The Framingham Study 飲酒量と虚血性脳卒中の危険因子：フラミンガム・スタディー	
執筆者	
Luc Dejoussé, R. Curtis Ellison, Alexa Beiser, Amy Scaramucci, Ralph B D'Agostino, Philip A. Wolf	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Stroke, 33(4); 907-912, 2002 Apr.	
キーワード	
Alcohol drinking, beer, cerebrovascular accident, ischemic stroke, wine 飲酒、ビール、脳血管疾患発症、虚血性脳卒中、ワイン	
要 旨	
<p>背景と目的 脳卒中は合衆国において主要な死因のひとつである。飲酒量と虚血性脳卒中との関連については異論のあるところである。</p> <p>方法 フラミンガム・スタディーの対象者から収集したデータを用いて総飲酒量および酒類と虚血性脳卒中発症との関連を全年齢および年齢階級ごとに検討した。</p> <p>結果 10年ごとの3回の追跡期間中に男性196例、女性245例の虚血性脳卒中の発症があった。非飲酒者、純アルコール量0.1～11g/日飲酒者、12～23g/日飲酒者、24g以上/日飲酒者、0.1～11g/日の過去の飲酒者、12g以上/日の過去の飲酒者の虚血性脳卒中の発症率は、男性ではそれぞれ1000人年あたり6.5、5.9、4.9、5.0、6.7、17.8例であり、女性では5.9、4.1、4.1、4.3、8.3、7.1であった。全症例を含めたCox比例ハザードモデルを用いて非飲酒者と比較した結果では、男女とも現在飲酒量は虚血性脳卒中の発症と有意な関連は認められなかった。一方、男性の純アルコール12g以上/日の過去の飲酒者は非飲酒者に比べて2.4倍の虚血性脳卒中発症の危険性が認められたが、女性ではこの関連は認められなかった。年齢階級別にみると、60歳～69歳までの対象者では、飲酒は虚血性脳卒中の発症の危険性を低減させることが認められた。酒類に着目した検討では、ワインの飲酒量だけが虚血性脳卒中の発症を低下させるという関連性が認められた。</p> <p>結論 本研究の結果は、全体として虚血性脳卒中の発症と飲酒量との間に有意な関連は無いことを示すが、60歳～69歳までの者に対しては飲酒は虚血性脳卒中の発症に予防的に働くことが示された。</p>	